

MSY4-1

健やか親子21（第2次）の計画と評価に関する最近の動向

山縣 然太郎

山梨大学大学院総合研究部医学域 社会医学講座

母子保健における国民運動計画である健やか親子21（第2次）が2015年度から開始した。10年後に目指す姿を「すべての子どもたちが健やかに育つ社会」として、健康地域格差の是正と親子の多様性に対応した支援のある社会の実現を目指す。また、子どもの健やかな発育のためには、子どもへの支援に限らず、親がその役割を発揮できるよう親への支援をはじめ、地域や学校、企業といった親子を取り巻く温かな環境の形成や、ソーシャル・キャピタルの醸成が求められるとしている。そして、母子保健活動は命を守る「子育て健康支援」であるという思いが込められている。

健やか親子21（第2次）では3つの基盤課題と2つの重点課題を設定し、64の指標、すなわち、健康水準の指標（25）、健康行動の指標（19）、環境整備の指標（20）について目標値を定めた。加えて、指標には目標値は定めないが注視していく29の参考指標を示した。

3つの基盤課題はわが国の母子保健の基本理念である切れ目のない支援と地域で子育てをするというに基づいている。基盤課題のAは、「切れ目のない妊産婦、乳幼児への保健対策」で、妊産婦死亡率の低下や低出生体重児の割合の低下を健康水準の指標としている。基盤課題のBが「学童期・思春期から成人期にかけた保健対策」で、十代の自殺率、未成年の人工妊娠中絶率の低下を指標としている。基盤課題のCは、「子どもの健やかな成長を見守り育む地域」で、ソーシャル・キャピタルの醸成によりこの地域で子育てをしたいと思う親の割合を増加させることなどが指標になっている。

重点課題は数多くある母子保健の課題の中から喫緊の課題となっている2つを設定している。重点課題1は「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」で、発達障害を念頭におき、子ども達が育つ環境整備を推進するとした。重点課題2は「妊娠期から児童虐待防止対策を行う」であり、さらなる虐待防止対策に取り組むこととした。

健やか親子21を推進するにあたっては、①切れ目のない支援、②多様性に応じた子どもと親への支援、③孤立をさせない支援の3つの基本支援を充実させるための施策として①情報の利活用、②関係者の連携、③子育てソーシャル・キャピタルの醸成が必要である。これらについて現状と課題について概説する。